

支部新人大会

2025. 9. 18

先日、福島支部新人大会があった。ここ数年は、部活動が学校から地域へと移行していく過渡期にあたる。中体連大会へのクラブチームの参加も増えてきた。東北大会や全国大会の結果を見ると、クラブチームの名前が目立ってきている。その名称だけを見ても、どこの県のチームなのかがわからない。

この動きの中で、大会の在り方にも変化が生じてきている。福島支部新人大会もそうである。今年度は、休日の開催となった。今までは、平日の授業日だった。実施される競技もばらばらである。支部大会がない競技もある。

もう随分と時が経ってしまったが、自分の中学時代を思い出してみる。あの頃の新人大会は、福島支部大会どまりだった。上位大会である県北大会、県大会がなかった。後で思ったことだが、上位大会をやってほしかった。

中学1年生で出場した支部新人大会は、団体戦で接戦をものにできず負けた記憶が残っている。ずっとマッチポイントを握っていながら、最後の最後で負けてしまった。個人戦の記憶はない。

中学2年生の支部新人大会はよく覚えている。なぜなら優勝できたからである。試合のことは覚えていないが、結果だけは覚えている。団体戦で優勝することができた。メンバーに恵まれていた。うれしかった。

個人戦は、優勝しようなどとは考えてはいなかった。練習試合では、相手の学校の一番手には、よく負けていた。そのため、本番の大会では、謙虚に、一試合一試合、戦っていった。あれよあれよといううちに決勝戦まできたしまった。それでも勝ちを意識することはなかった。終わってみれば、優勝していた。うれしいなどというレベルではない。天にも昇る心地だったのではなかろうか。

だが、これがよくなかった。調子に乗ってしまった。天狗になってしまった。練習を怠けたりはしていない。部活動大好き人間である。練習も試合も好きだった。気持ちの面の問題である。それまでの謙虚さがどこかにいってしまった。今考えても、未熟な少年だった。負けた試合からは多くのことを学ぶことができる。一方、勝った試合は危険である。気を引き締めないと何があるかわからない。

支部新人大会優勝で得ることができた自信は大きかった。もし、上位大会があれば、上のレベルを肌で感じることはできただろう。天狗の鼻をへし折ってくれる相手と試合をすることもできたことだろう。

中学2年生で調子に乗ってしまった少年は、その後は気をつけるようにはなった。高校まではよかった。ところが、大学3年生での大会で、大きな失敗をしてしまう。楽勝ムードから油断をしたというか、調子に乗ったというか、相手に挽回を許し、大逆転負けを喫してしまうことになる。その試合を境に、勝てなくなってしまった。勝負は最後までわからない。その試合で、そのことを身をもって知ることができた。我がソフトテニス人生が変わってしまった試合だった。